

令和3年度公立大学法人島根県立大学当初予算の概要

I 予算編成の考え方

令和3年度は、第3期中期計画期間（令和元（2019）年度～令和6（2024）年度）のうち、改革実施期間の初年度にあたり、理事長の強いリーダーシップの下での機動的・戦略的な大学改革を着実に推進していく必要があります。

具体的には、浜田キャンパスの新学部学科の開設初年度への対応、松江キャンパス・出雲キャンパスの四大部及び出雲キャンパス看護学研究科博士後期課程の学年進行への対応、魅力化推進本部の設置に伴う大学魅力化の取組等を実施します。また、コロナ禍の現況においては、感染拡大を防止しつつ学生の学修機会確保を図る必要があることから、令和2年度に引き続き、感染防止環境整備、遠隔授業対応、困窮学生への支援等の取組を継続します。

一方で、設立団体である県からは年間約50百万円程度の経営努力を求められており、経費節減や事務事業の見直し、人件費の抑制等により自己財源の充実や運営経費の抑制に努め、大学運営の健全化を図る必要があります。

このため、既存事業のスクラップ・アンド・ビルドを徹底しつつ、大学改革に必要な事業については重点的に予算措置するとともに、コロナ禍における学生の学修機会の確保を遂行することを基本方針として編成しています。

II 当初予算の概要

1. 事業費総額

事業費総額は38億42百万円で、高等教育修学支援制度の対象者の増、新型コロナウイルス対策経費の増等により、前年度予算（36億97百万円）に比べ3.9%の増（145百万円）となっています。

（単位：千円）

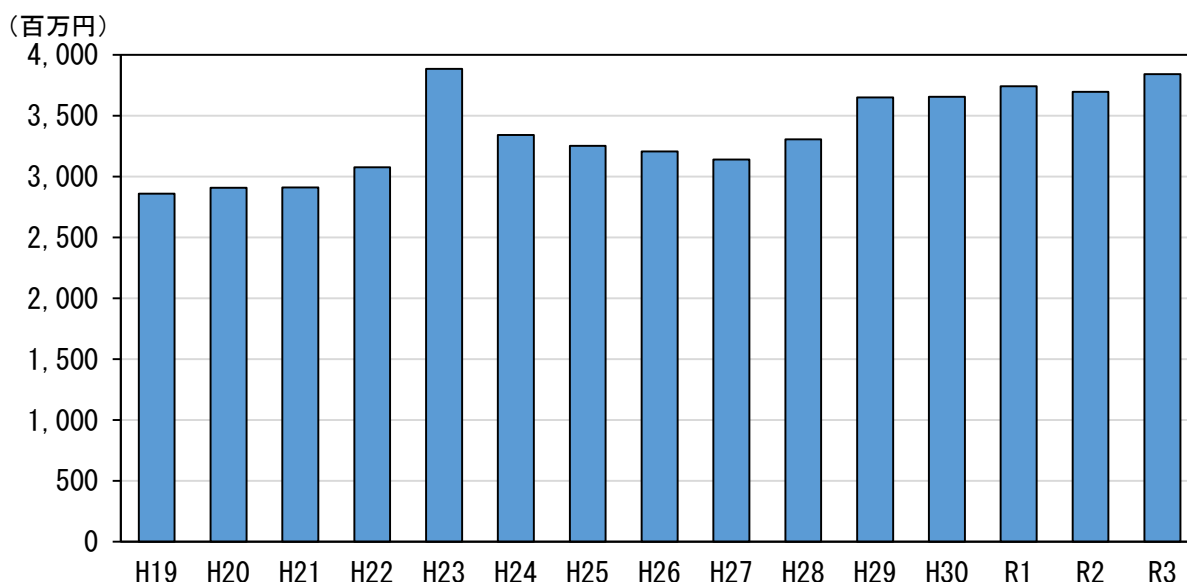
区 分	R3当初	R2当初	増 減	増減率
予算規模	3,842,005	3,697,151	144,854	3.9%

【参考】 予算規模の推移

（単位：百万円）

H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
2,860	2,907	2,911	3,077	3,885	3,342	3,253	3,206	3,139	3,305	3,649	3,655	3,742	3,697	3,842

※H25、R1は補正後額



2. 収入予算

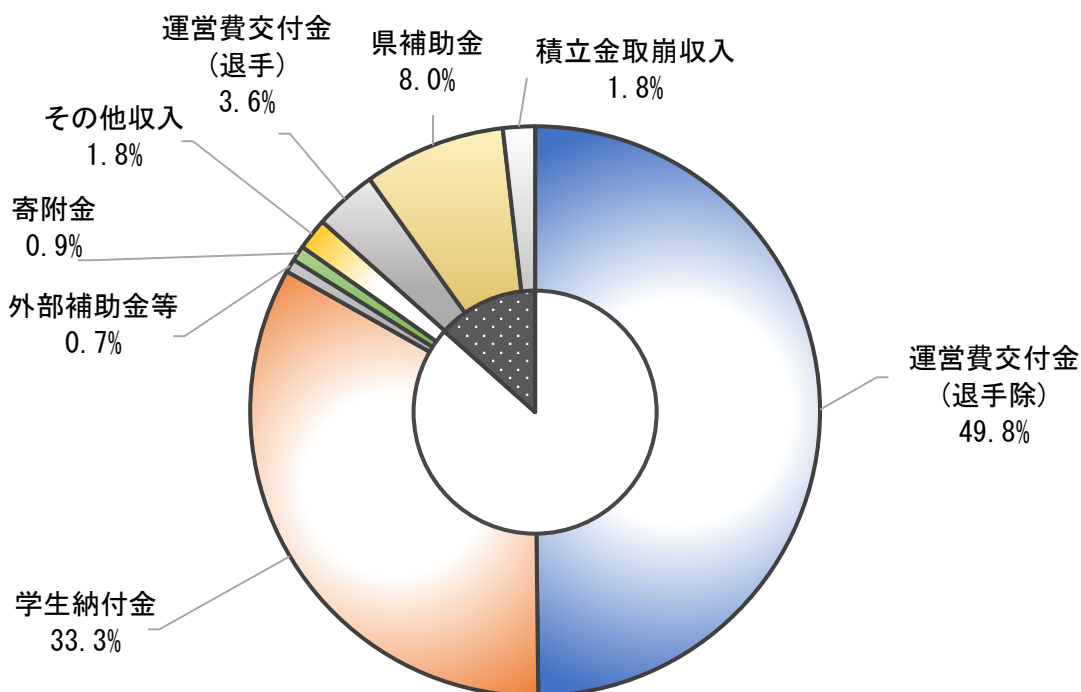
(単位：千円)

区 分	R3当初		R2当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金(退手除)	1,914,280	49.8%	1,997,630	54.0%	▲83,350	▲4.2%
学生納付金	1,280,703	33.3%	1,185,804	32.1%	94,899	8.0%
外部補助金等	28,778	0.7%	24,324	0.7%	4,454	18.3%
寄附金	33,554	0.9%	50,009	1.4%	▲16,455	▲32.9%
その他収入	69,238	1.8%	71,655	1.9%	▲2,417	▲3.4%
計	3,326,553	86.6%	3,329,422	90.1%	▲2,869	▲0.1%
運営費交付金(退手)	136,773	3.6%	82,360	2.2%	54,413	66.1%
県補助金	308,970	8.0%	207,870	5.6%	101,100	48.6%
積立金取崩収入	69,709	1.8%	77,499	2.1%	▲7,790	▲10.1%
合 計	3,842,005	100.0%	3,697,151	100.0%	144,854	3.9%

※端数調整の関係で増減率が一致しない場合がある

- 運営費交付金が全体の50%を占めています。
- 運営費交付金(退手除)は、松江キャンパス四大化及び出雲キャンパス大学院(博士後期)の事業費増の影響による増、授業目的公衆送信補償金の計上による増等の一方、共済費の影響による減、令和2年度人事委員会勧告の影響による減、四大化による定員増に伴う標準収入の増に伴う減等により83百万円の減額となっています。
- 学生納付金は、四大化に伴う松江・出雲キャンパスの定員増、新学部設置に伴う浜田キャンパスの定員増による影響で95百万円の増額となっています。
- 県補助金は、高等教育修学支援制度の対象者の増加、新型コロナウイルス対策経費の計上等により101百万円の増額となっています。
- 積立金取崩収入は、前中期目標期間繰越積立金を財源として実施する事業に充てるための収入として計上し、8百万円の減額となっています。

※目的積立金充当事業…教育向上、学生支援、研究支援、学生確保、環境整備等に資する事業



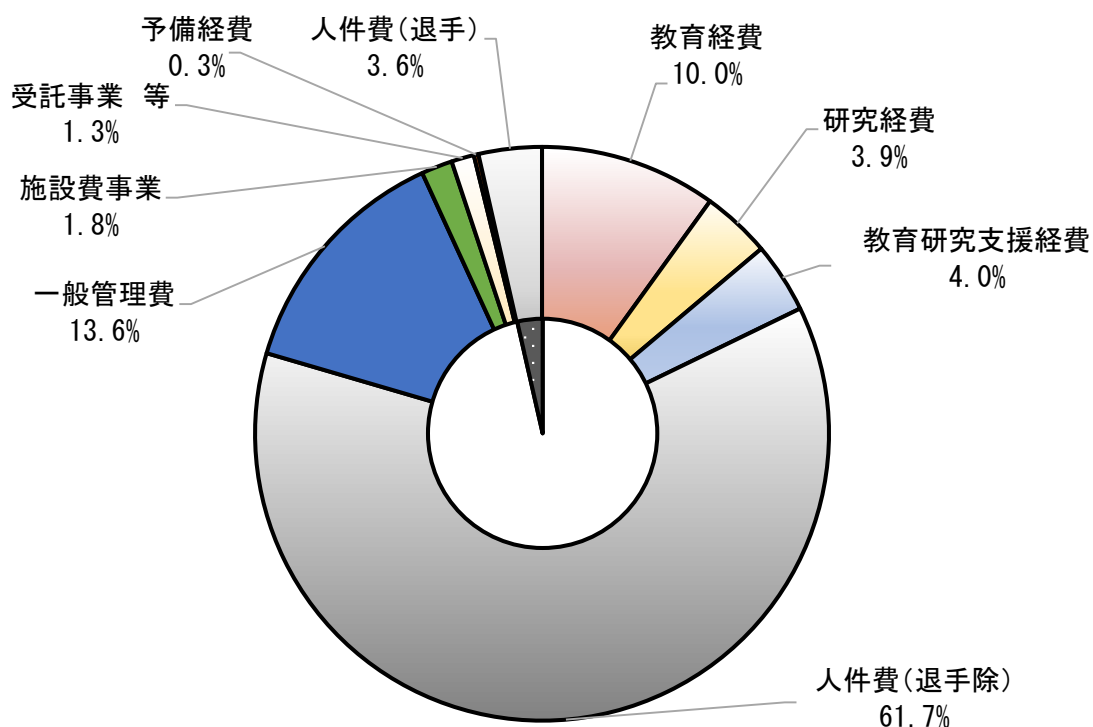
3. 支出予算

(単位：千円)

区 分	R3当初		R2当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	382,643	10.0%	292,958	7.9%	89,685	30.6%
研究経費	149,343	3.9%	154,442	4.2%	▲5,099	▲3.3%
教育研究支援経費	152,396	4.0%	160,210	4.3%	▲7,814	▲4.9%
人件費（退手除）	2,371,226	61.7%	2,345,287	63.4%	25,939	1.1%
一般管理費	523,154	13.6%	526,819	14.2%	▲3,665	▲0.7%
施設費事業	67,424	1.8%	69,421	1.9%	▲1,997	▲2.9%
受託事業 等	49,006	1.3%	60,856	1.6%	▲11,850	▲19.5%
予備経費	10,040	0.3%	4,798	0.1%	5,242	109.3%
計	3,705,232	96.4%	3,614,791	97.8%	90,441	2.5%
人件費（退手）	136,773	3.6%	82,360	2.2%	54,413	66.1%
合 計	3,842,005	100.0%	3,697,151	100.0%	144,854	3.9%

※端数調整の関係で増減率が一致しない場合がある

- 教育経費は、高等教育修学支援制度の対象者の増加、遠隔授業に係る修学支援金事業の計上及び四大化による実習経費の増加等の影響で90百万円の増額となっています。
- 研究経費は、個人研究費の単価見直し(R1~R3)等による影響で5百万円の減額となっています。
- 人件費（退手除）は、人事委員会勧告を受けた給与改定や共済費率の変更に伴う減要因がある一方、昇給・昇格や、新学部設置に伴う追加の教員配置等により、26百万円の増額となっています。
人件費の上昇は今後も続くと思込まれるため、人件費の抑制に向けた検討も今後の重要な課題です。
- 一般管理費は、新型コロナウイルス対応事業の計上といった増要因がある一方、浜田キャンパス新学部準備事業の終了等による影響で4百万円の減額となっています。
- 予備経費は、新型コロナウイルスへの対応を含めた年度途中の緊急的な支出に備えるため10百万円を計上しています。



Ⅲ 主な事業

1. 重点項目

(1) 県民からの期待に応える存在意義の高い大学

①学長裁量事業（法人本部）〈継続〉 41,000 千円

- ・令和元年度に大学改革に伴い再構築したフレームを基本としつつ、魅力化推進本部の設置やしまね地域国際研究センターの新設に併せて枠組みを再整理

項目	内容	金額(千円)
裁量枠	各Cの特性に合わせた魅力化推進事業経費として配分	4,500
学長戦略枠	しまね地域国際研究センターのプロジェクト研究費等	3,640
若手支援枠	将来的に本学の研究を担う若手研究者へ配分する研究費	12,000
地域貢献奨励金	学生の地域貢献推進奨励金	5,000
魅力化推進本部 運営経費	大学の魅力化に向けた制度構築や事業を実施 (広報、IR、入試改革・高大連携 等)	10,160
その他	出版助成、予備費 等	5,700

②連携校推薦実施経費（浜田C・出雲C）〈継続〉 1,466 千円

- ・入試改革により連携校推薦を導入し、アドミッションポリシーに即した入試を実施する。
令和4年度入試では地域政策学部地域づくりコースに加え、看護栄養学部での実施を予定。

(2) 地域に貢献する人材を輩出する大学

①しまねの未来を担う人財奨学金（法人本部）〈新規〉 1,000 千円

- ・島根県の将来を支えていく意欲を持つ優秀な人材の県内定着促進を図るため、島根県立大学未来ゆめ基金の活用を想定し、県内就職を希望する学生を対象とした奨学金制度を新設。

②地域貢献奨励金（法人本部）〈継続〉【(1)①の一部再掲】 5,000 千円

- ・学生の広域な地域貢献活動を促進するため、交通費や宿泊費等の支援を行う。

③高大連携事業（法人本部）〈継続〉【(1)①の一部再掲】 1,960 千円

- ・「高校魅力化事業」をもとに、県内高校との協働及び連携活動をさらに促進させ、高校と共同でカリキュラム化に引き続き取り組む。

④しまね産学官人材育成コンソーシアム事業（法人本部）〈継続〉 6,197 千円

- ・県内就職促進に向け、県内教育機関と県等により設立されたコンソーシアムの枠組みの下、企業と連携した教育プログラムの実施やしまね大交流会の開催等の取組を引き続き実施する。

(3) 地域が抱える諸課題に対応する研究及び教育を重視する大学

①しまね地域国際研究センター事業(法人本部)〈新規〉【(1)①の一部再掲含む】 4,640 千円

- ・島根県が抱える地域及び国際的な課題に関する研究支援を目的としてしまね地域国際研究センターを新設し、研究成果を地域に還元すると共に自治体や県内企業等の各機関との連携強化を図る。

②診療看護師（NP）及び助産学領域の設置（出雲C）〈継続〉 6,301 千円

- ・出雲キャンパス大学院看護学研究科博士前期課程に令和2年度より診療看護師（NP）プライマリケア及び助産学領域を設置。在宅医療を支える人材及び専門性の高い助産師を養成。

③入学科授業料奨学制度（全C）〈継続〉 154,878 千円

- ・国の高等教育修学支援制度による入学科・授業料の減免実施のほか、国制度の対象外となる大学院及び別科に対しては県立大学の支援制度を実施する。

④学生利便性向上施設整備費（法人本部）〈継続〉 5,000 千円

- ・学生の利便性を高める施設・設備を整備するため、利用頻度の高いトイレの洋式化又はシャワー便座化を進める。

（4）国際交流、海外留学等の促進

①海外留学等支援事業（全C）〈継続〉 1,550 千円

- ・島根県立大学未来ゆめ基金を原資として、学生が自ら企画する海外での活動に対して助成し、学生の海外渡航を支援するとともに、自ら考え行動する体験機会を提供する。

②海外留学・海外研修等に係る奨学金（全C）〈継続〉 15,055 千円

- ・本学の特色である「国際的な視野を持った人材養成」実現のため、学生の海外留学、海外研修等に対する支援の強化を図る。

③短期国際交流（法人本部）〈継続〉 560 千円

- ・マレーシアにあるマラヤ大学において、現地学生と協働学習し多文化共生力を育成するため、短期海外体験プログラムを実施する。

2. その他項目

（1）入試広報事業

①WEBオープンキャンパス特設サイト（法人本部）〈継続〉 605 千円

- ・新型コロナ対策として令和2年度に実施したWEBオープンキャンパスを継続して実施。対面形式との併用を図り、本学志願度の向上やミスマッチの軽減に繋げる。

②浜田キャンパス紹介動画の再作成・全学版動画編集（法人本部）〈新規〉 990 千円

- ・浜田キャンパス紹介動画の再作成及び全学版紹介動画の改修を行い、受験生へ新学部発足後のキャンパスの雰囲気や魅力を発信し、志願者数の増加を図る。

（2）その他

①おはなしレストランライブラリー事業（松江C）〈継続〉 6,765 千円

- ・授業での実践的な学びの場として、地域住民への絵本の貸出、学生による絵本の読み聞かせ活動などを実施する。

②松江キャンパス建築物外壁劣化診断業務（松江C）〈継続〉 4,994 千円

- ・外壁の落下等による事故を未然に防ぐため、建物外壁タイル等の劣化・損傷を調査。3か年による調査計画の最終年にあたり、本調査結果を元に必要な修繕を検討する。

③インターネット出願システム導入（法人本部）〈新規〉 7,018 千円

- ・受験生の利便性向上及び出願処理事務の効率化のため、インターネット出願システムを導入し令和4年度入試からの活用を図る。

④新型コロナウイルス対応事業（法人本部）〈継続〉 68,668 千円

- ・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策の徹底、及び学生の学修機会確保を両立するため、遠隔授業実施に向けた支援、授業料減免等による学生への経済支援、県補助金を活用した感染予防環境整備等の事業を実施する。